

都市遺産の保護と価値向上

都市の建築遺産の保護と活用は、単に文化的事業だけではなく、都市開発における重要な要素である。そのことは半球の南北を問わず、長期にわたる教育機関と地方公共団体との連携を生み出すものである。



右上：Ouidah（ベナン）の「奴隷の道」に作られた「帰らざる扉」

上：モロッコの伝統的な扉



歴史（文化）遺産とは、伝統的には独立したモニュメントや建物を意味していた。今日では、都市または自然全般（歴史中核施設、村落、風景、大規模地域）にも用いられるが、新興国では意思はあっても充分には保護されていない。すなわち、失われた文明があったことを示すような考古学的遺跡に光を当てるといよりは、今は遺跡が表現しようとする人間の技能や社会的な行動に焦点を当てるため、地域の伝統に根ざした建造物遺跡を保護する動きが強くなっている。

同様に、例えば西アフリカの「奴隷の道」のように、物理的な形でははっきり残っていない無形遺産（聖地、宗教的儀式、歴史的な行事など）にも光が当てられつつある。植民地時代の名残をとどめるものでも歴史的物件となり、その認識と復興は地域に新たな財産をもたらしている。

都市計画家の訓練 (School of African Heritage / Institut National du Patrimoine / École de Chaillot)

アフリカ遺産学校と共に



Au palais des rois d' Abomey.

アフリカ遺産学校は、Institut National du Patrimoine（フランス国家遺産学院）と École du Patrimoine de Chaillot（シャイヨ遺産学校）と協力して、フランス語圏のアフリカ諸国から美術館の学芸員や都市計画家のための研修コースを組織している。ケーススタディとして、環境、無形遺産、慣行およびインフラの問題に焦点を当てつつ、Abomey（ベナンの町）の王宮の修復と増築からポルト・ノボ（ベナンの首都）の開発プロジェクトまで、幅広く取り上げている。

www.epa-prema.net
http://eng.inp.fr
www.citechailot.fr



フランス専門家と中国遺産

ここ10年来の中国の大都市の急成長は歴史地区の崩壊をもたらしたが、一方で遺産保護の重要性を認識させることになった。中国の国立歴史都市研究所と上海の同済（Tongji）大学は、フランスの手法によるマネージメント計画に基づいて、歴史地区の保全について大規模なキャンペーンに乗り出した。中国現代建築院の支援を受けて、フランスの専門家とシャイヨ校（École de Chaillot）は、世界遺産に登録されている同里（Tongli）と西塘（Xitang）の町の復元に貢献した。



上：保存計画の対象である中国の同里（Tongli）の町

上：レンヌにおける中国人都市計画担当者と市長の歓迎

経済的、社会的および環境的なツール

活用されない遺産は消滅する。持続的に保護するためには、古い建物も現実の目的に添って使われなければならない。後発途上国で資金不足が障害になるということは、見かけだけの話である。実際、地元の労働力を使うことが高くつくということは、最先進国だ

けの問題である。石工、土れんがが工、木工などの技術や、モルタル壁土漆喰に石灰を使うことは、現在も広く行われている。実施されている研修コースは、技術移転の手段になる。

歴史遺産の補修は、雇用の場を直接提供するだけでなく、新たに商業活動や手工芸の活動を生み出すことにもなる。観光客に対する親切心を涵養し、現地の美化や旅行の組織化を伴う観光は、優先度の高い開発行為となる。破壊する開発と救う開発のバランスをとるた



アーメダバードの歴史拠点の復元と再生

インド独立50周年の1997年に、フランス政府はインド政府に遺産の保護と改善についての協力をを行った。2000年には、優れた都市建築物の質を誇るアーメダバードの歴史拠点において、地域住民がその遺産を守りつつそこに住み続け、地域の生活を活性化し、さらにインドの建築家に保存技術を訓練するための復元計画の策定にあたった。2003年に情報と訓練を提供するための遺産センターが設置され、2005年末までに49の復元プロジェクトが成功裡に終了した。

アーメダバード（インド）のジャラリ寺院の復元

めには、遺産についての深い知識を持つ必要がある。

協力のチャンネル

ユネスコとその「世界遺産」保護プログラムは、経済的支援を直接与えるものではないが、その場所の認知度の高まりによって、官民の投資を引きつけることができる。同じ関心を持つ都市のネットワークでの経験の交流も、協力の有力なチャンネルとなる。地方間協力計画では、都市遺産が優先度の高いテーマとして選ばれている。

ヨーロッパのいくつかの計画では、新興国における歴史的な拠点を対象としている。EU新規加盟国は、地域計画や「都市およびInterregに関する共同イニシアティブ」を対象とした「構造基金」の恩恵を受けることができる。EU委員会は、EuroMed Heritage, Asia-UrbsあるいはUrb-AIなど各種の地域計画に資金援助をしている。

世界銀行の「遺産と都市開発計画」では、文化・建築遺産を含む大型のインフラプロジェクトに資金供与している。2006年には18のこの種のプロジェクトが行われていた。

フランスにおいては、遺産は外務省とフランス開発庁（AFD）が支援している事業の中でも優先度の高い事業の一つである。文化省も専門家の交流を行っている。

フランスのいくつかの建築学校は、外国の研究所と協力している。手工業分野においては、アビニオン保存・復元技術訓練校が、外国で職業訓練ワークショップを開催したり、伝統的な住宅に関する資料整理に参画している。国立文化財学院（Institut National du Patrimoine）は景観保存活動や博物館の学芸員のための研修コースで協力している。シャイヨ校（École de Chaillot）は、幾つかの国で専門的な建築家の養成に貢献している。

ブルガリアの復元の授業風景、ブルガリア遺跡研究所 / École de Chaillot, Rhodopesでのワークショップ

豊富な学習経験となるこれらの協力計画は、供与側および受入側両者の専門家のための接点となり、契約の対象となる。もし、西洋のモデルが興味を引くと

するならば、それは新興国が自分自身のツールを開発することを奨励するような地域の独自性を大切にしていることによる。協力は真の技術移転を生み出し、持続可能な行動を伴わなければならない。■



シリアの復元についての講義ノート、ダマスカス建築学部 / École de Chaillot の共同ワークショップ カナワト (Qanawat) 地区の保存計画案



植民地時代の名残が歴史的となっている（右アルジェ（アルジェリア）の中心地にある中産階級の建物）



参考サイト

ユネスコ世界遺産
<http://whc.unesco.org/FR/apropos>
 国際記念物遺跡会議 - ICOMOS
www.icomos.org
 ヨーロッパプログラム (EuroMed Heritage, Asia-Urbs, Urb-AI)
<http://europa.eu.int>
 世界観光機関
www.world-tourism.org
 南米やカリブ海の都市の歴史的な中心部の復興についてのインターナショナル・サイト - SIRCHAL
www.archi.fr/SIRCHAL
 フランスの協力
www.diplomatie.gouv.fr/solidarite/fsp
 Comité de coordination, d'orientation et de projets - COCOP
www.egide.asso.fr/fr/programmes/econet/
 École d'Avignon
www.ecole-avignon.com
 Culturesfrance
 国際文化交流に携わる外務省の外局。
www.culturesfrance.com
 オンライン参考サイト：
www.villesendevenir.org